

発表者15

アショー アハメド



● 出身・ルーツ

サウジアラビア

● 日本に来たのはいつ？

2011年5月

● 日本語を勉強している期間は？

2年間

● 発表者コメント

サウジアラビアから参りましたアショー アハメドと申します。日本に来てから、もう4年間が経っています。スピーチが大好きで、インターネットを通してこの大会を見つけましたので、ひじょうに参加をしたくなりました。

● 推薦者コメント 【友人 アブドラマーン ダウィーラさん】

アショーさんは2011年5月一緒に日本にきました。日本語学校の時代から今まで、ずっと仲良い友達です。日本語学校の時、日本で初めてスピーチコンテストをしたのは、日本語学校の大会でした。アショーさんと私も参加し、アショーさんの方が良かったし、優勝することができました。残念ながら、私は優勝できなかったのですが、アショーさんが優勝したことで私も嬉しかった。アショーさんはいつも積極的で、スピーチコンテストをするのが趣味みたいなので、私の方も応援します。

スピーチタイトル 「私の目で見える世界」

皆さんは、今までに色盲や色弱ということばを耳にしたことがあるでしょうか？色盲や色弱についての知識の少ない人は「色盲の人ってどんな人なのか、白黒しか見えないのか」という疑問を頭に浮かべるかもしれません。

色盲とは色覚障害、または色覚異常と呼ばれ、平たく言うと見えている色が人と違ったように見えることです。世界的には女性より男性に多い病気で、私もそのうちの1人です。ですが、姿勢はこのようにみなさん

と全く同じです。色盲は人によって程度が大きく異なり、私の場合は、青と紫の区別が難しかったり、緑色が赤色や茶色に見えてしまいます。

私が「自分の目は皆とは違うんだ」・・・そう気づいたのは小学校のころでした。今まで思っていた色が、実際は全く別の色だったと知ったショックは、まだ小さかった私にとって大きなものでした。

しょうがっこうのころ、美術の授業で海の風景を書いたときのことです。私は絵を書き終わり、友達同士で見せ合いました。しかし、友達に見せたとたん、すぐに笑われてしまいました。ともだちはお腹を抱えて、目に涙を浮かべながら「どうして空の色を紫に塗ったの？なぜ人の肌は緑色なの？」と言いました。私は色鉛筆を間違えて使っていたのです。友達にそう言われた瞬間、何を言っているのか正直わからず、恥ずかしい思いで胸がいっぱいでした。そして、その時初めて自分が色盲であると気づいたのです。

もう最近では色盲の生活にも慣れましたが、困ること、辛いことも時々起こります。たとえば今年の春、友達と桜を見に行きました。

友達は「見て！綺麗なピンク色だよ！こっこの桜は少し白くて、こっちは濃いピンクだね！」とワクワクした顔で私にそう言いました。しかし、私にはどの桜も灰色にしか見えなかったのです。

「どうして私は色盲なんだろう？」とても悔しくて、「ごめんね、僕にはその色は分からない」というと、友達も悲しそうな顔をしてしまいました。綺麗な花や、綺麗な風景を見るとき、友達に似合う服を選ぶとき、もし私が色盲でなかったら、みんなと同じ色が見えたら、みんなももっと喜び／楽しみを分かち合えるのでは。そんな風に自分に無意味さを感じてしまう時がありました。

「みんな違って、みんな良い」これは日本語学校の先生から教えてもらった言葉です。この

言葉を聞いたときは、特に何も感じませんでした。自分が色盲であることに悩んでいた時期に、この言葉を思い出し自分の心の中で何かと何かが強くリンクした感覚を覚えたのです。それは、「私の目は人とは違いますが、そこが私の良いところだ」ということです。

色盲だけじゃなく、みんなどこか人と違ったところを持っているはず。でも、みんな違って、みんないいのですから、私は決して「無意味」なのではありません！私はこの目を持って生まれてきました。そしてこれは私だけのもので、特別なのです。そう思えたとき、出来るだけ色盲であることを積極的に考えよう決めました。

私は皆さんが見ることができない特別な世界を見ています。もちろん、友達が感動した美しいピンク色の桜を、私も同じように感動することはできません。ですが、灰色の桜は温かい日差しの下では美しい銀色に見えるのです。この美しさを体験できるのは私だけの特権です。

色盲であることで、バカにされたり、悔しい思いもたくさんしてきましたが、今ではこの目で生まれてきて、良かったなあと誇りに思っています。色盲であることを告白すると、「かわいそう」と言ってくれる人は少なからずいますが、そんな風に思う必要はありません。ただ、理解しようとしてみてください。なぜなら、私たち色盲の人たちは色盲であることを嬉しく思っているからです。ご清聴ありがとうございました。

● 来場者・発表者からの応援メッセージ

- 日本語が本当に上手ですね。深いスピーチだったと思います。(平嶋)
- 「色盲」はどうゆうものかをはじめて知りました。正直言うと、ショックでした。でも、そういう世界があることを知ることができて良かったです。そしてアショーさんがそのことをありのままに受け取め、とても前向きにとらえてることは、私たちに勇気を与えてくれました。ありがとう。
- 「みんなちがってみんないい」んだよね。
- 色盲についてあまり深く理解していませんでしたが、アショーさんのスピーチでよく知ることができました。多くいる色盲の人たちのためになるすてきなお話がありました。(柴田)
- とても日本語がお上手なので、辛かった時、悲しかった時の気持ちが、よく伝わってきました。美しい銀色の桜、新しい世界です。
- アハメド様 色盲は直るのですか(A.H)
- サウジアラビアの方の日本語、初めて伺いました。自信を持って表情豊かにお話しされる姿、私も勇気をいただきました。ありがとうございました。(つだ)
- 明るく前向きな貴方に教えられました。日本語上手です！(下山)
- 「人と違うことが恥ずかしい」そう感じなくてもよい社会ってあるのでしょうか？色の区別がつかない「障害」は外見ではわからないので、誤解されることもあるでしょう。今、大学の生活で困ることないですか？わからないことや違うこと=(イコール)悪いことじゃないはずです。
- 色盲の方の体験を聞くのは初めてでした。特別なことをむしろ喜ぶアハメドさんの考え方はとても良いと思いました。話しが聴けてとても良かったです。(加藤)
- アショー君…Asslamualai Kum Wrab カッコイイ…
- 色盲を欠点と思わず特別なこと、人と違うこと、誇りと思う気持ちが素晴らしいです。すがすがしい気持ちになりました。(すとう)
- 「皆違って、皆良い」の意味を深く実感しました、せっせよく的に色盲のことを考えることにしたのはとても素晴らしいとおもいます。(木村)
- 色盲の世界、全く知りませんでした。「人は皆違っていい」と思い直せて良かった。色盲であることをポジティブにとらえることができること、すばらしく思いました！笑顔もステキでした。(木村)